令和元年度（第６３回）

岩手県教育研究発表会発表資料

家庭／技術・家庭分科会

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

－広げよう　かかわり、求めよう　よりよい生活－

令和２年２月１４日
奥州市教育委員会
奥州市立稲瀬小学校
佐藤真由美
奥州市立常盤小学校
渋谷智紀
奥州市立前沢小学校
金野美穂

目　次

Ⅰ　研究主題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　副主題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅲ　研究のねらい　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅳ　目指す子ども像　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅴ　研究の視点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅵ　全体構想図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅶ　研究の実際　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1「指導計画及び評価」と研究の視点の関連

2　本時展開案への研究の視点の位置付け

3　振り返りの工夫

Ⅷ　実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

1　５年「寒い季節を快適に」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

2　５年「かしこい消費者になろう」　・・・・・・・・・・・・・・・・・８

Ⅸ　成果と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

1　成果

2　課題

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

－広げよう　かかわり、求めよう　よりよい生活－

Ⅰ　研究主題について

研究主題は、家族・家庭生活の多様化や消費社会の変化等に加え、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することができる資質・能力の育成を目指した新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成 30 年度に設定された。

小学校家庭科においては、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動を通して、「日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、技能を身に付けること」、「日常生活の中から問題点を見出して課題を設定し、課題を解決する力を養うこと」、「家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うこと」をねらいに、家族・家庭、食育、消費、環境等に関する学習の指導を充実することが求められている。

研究主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く」とは、家族や地域の異なる世代の人々、自然や環境、社会、生活文化などとの関わりを通して、共に生きていこうとする心をもち、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度であり、これからの生活へとつながる持続可能な社会を構築していくことを指している。

Ⅱ　副主題について

岩手の家庭教育では、「よりよい生活」を目指す子どもの育成について昭和 61 年度から３つの視点「生活を見つめ、生活の中から問題を発見し、課題をとらえること」、「実践的・体験的な学習を通して、課題解決を図ることで、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得すること」、「家族の関わりを大切にしながら、習得した知識や技能を実際に家庭で実践すること」に取組み、成果を上げてきた。

また、第 30 回北海道・東北地区小学校家庭科教育研究大会岩手大会（平成 27 年度）では、主題「未来を創り出す豊かな心と確かな実践力を育む家庭科教育」、副主題「深めよう　かかわり、求めようよりよい生活」を掲げ、家庭・地域との関わりを深めていくことによって、自分の成長を実感し、自信をもってよりよい生活を目指していく子どもの育成に取組み、実践を重ねてきた。

「広げよう　かかわり」とは、家族のみならず地域で共に生活している異なる世代の人々へも関わりを広げていくことと捉えている。子どもたちは多くの人と関わりながら生活している。幼児や高齢者など様々な人々と共に協力し助け合って生活することの大切さを理解する中で、これまでの自分の行動や生活を見つめ直すことができ、自分が協力できることはないかという思いにもつながっていく。また、人々と関わっていくなかで、自分の思いや願い、考えの広がりも期待される。その思いや願い、新たな考えが原動力となり、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、学習したことを身近な人々のために活用しようとする実践力になると考えた。

「求めよう　よりよい生活」とは、自分の抱いた思いや願いを実現しようと実践を重ね、生活に主体的に働きかけていくことと捉えている。

このように、家庭・地域との関わりを広げていくことによって、自分の成長を実感し、自信をもってよりよい生活を目指していく子どもが育つと考える。

Ⅲ　研究のねらい

家庭・地域との関わりを広げながら自分の成長を実感し、よりよい生活を目指す子どもを育成する指導の在り方を明らかにする。

Ⅳ　目指す子ども像

家庭・地域との関わりを広げながら自分の成長を実感し、よりよい生活を目指す子ども

〇学習したことを身近な生活に活用できる子ども

〇日常生活に必要な知識及び技能を身に付けている子ども

〇家庭生活や自分の成長に思いや願いをいだく子ども

Ⅴ　研究の視点

「い・わ・て・い・い・生活」（いだく・わかる・できる・いかす・いきる）

視点１：家庭生活や自分の成長に思いや願いをいだかせる工夫【いだく】

かけがえのない家族や地域の人々と関わらせながら、家庭生活や自己を見つめさせる手立てを工夫することで、「してもらう自分」から「できる自分」への成長を実感しながら、思いや願いを「いだく」ことができると考えた。具体的な手立てとして次のように考えた。

- ●家庭生活を見つめさせる工夫
- ●自分の成長を実感できる題材構成
- ●見通しと振り返りをもたせる工夫

視点２：日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせる工夫【わかる・できる】

実践的・体験的な活動を位置付け、生活経験や個人差に配慮した支援や見取りを行うことで、身近な生活課題の解決を図りながら、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ることができると考えた。その際、自らの考えを的確に表すことができるよう言語活動を充実させるとともに、子どもが自分の学びの状況を把握し、他の子どもたちとの関わりを深めることによって、より実感を伴った知識（「わかる」）や（「できる」）の習得に結びつくと考えた。具体的な手立てとして次のように考えた。

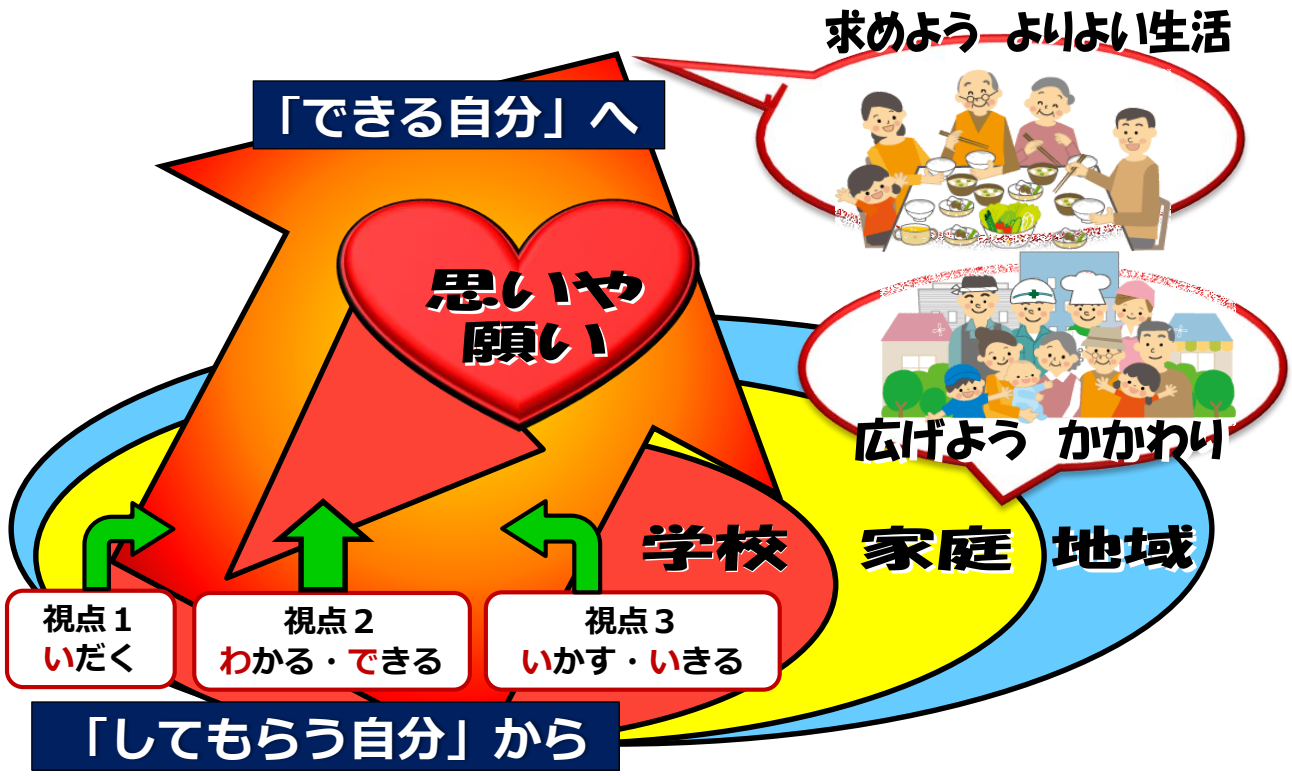
- ●実践的・体験的な活動の位置付け
- ●言語活動の充実
- ●子どもの実態に応じた支援と見取り

視点３：学習したことを身近な生活に活用させる工夫【いかす・いきる】

自分と家族や地域の人々との関わりを考えて実践する喜びを味わわせ、できるようになったことへの自信をもたせながら、家族や地域との結び付きを大切にする学習を工夫することにより、主体的に家族・地域に関わり、よりよい生活の実現を目指して、思いや願いをさらに強く抱き、習得した知識や技能を「いかし」て、実践する（「いきる」）ことができると考えた。具体的な手立てとして次のように考えた。

- ●家庭や地域での実践の在り方
- ●家庭や地域との連携の在り方
- ●復興教育との関連

Ⅵ　全体構想図



Ⅶ　研究の実際

１「指導計画及び評価」と研究の視点の関連

（１）家庭等での実践化を盛り込んだ単元計画

・朝食づくり、快適な衣服やくらしの実践

（２）　家庭や地域との連携

・家庭からのコメント、実践報告会

２　本時展開案への研究の視点の位置付け

（１）自分事としての課題設定

・困り感、必要感

（２）実践的・体験的な活動

・道具箱の片づけ、布の通気性実験

（３）科学的に納得させる資料提示

・サーモグラフ、ビデオ資料、専門家の説明

（４）言語活動を通した学習内容の明確化

・キーワードの共通理解、根拠を明確にしたまとめ文

３　振り返りの工夫

（１）学習内容の自分への落とし込み

・「今までは」「今日の学習で」「これからは」

Ⅷ　実践事例

１　５年「寒い季節を快適に」　　授業者　奥州市立常盤小学校　教諭　渋谷　智紀

（１）本時のねらい

衣服の着方や働きに関心をもち、あたたかく過ごすための着方がわかる。

（２）本時の指導について（視点とのかかわり）

視点１「家庭生活や自分の成長に思いや願いをいだかせる工夫【いだく】」、視点２「日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる工夫【わかる・できる】に関わり、次の手立てを考えた。

【いだく】	○学校生活や家庭生活を振り返り、あたたかい着方を自分で考えたいという思いをいだくことのできる場を設定する。
【わかる】	○布の種類による違いや重ね着を体感し、ＶＴＲを活用しながら、あたたかい着方のポイントを学ぶ場を設定する。

（３）具体の評価規準

評価規準	A:十分満足できる（評価方法）	B:おおむね満足できる（評価方法）	努力を要する児童への手だて
○衣服の着方やあたたかい着方について理解している。【知識・理解】	○保温性の高い布や重ね着により空気の層をつくることが必要であることを根拠に、あたたかい着方をするための実践を考えている。（発言・観察・ワークシート）	○あたたかい着方をするためには、保温性の高い布や重ね着により、空気の層をつくることが必要であることを理解している。（発言・観察・ワークシート）	○板書をもとに振り返り、布の種類や重ね着の仕方に気付くことができるようにする。

（４）展開

過程	学習活動と学習内容	・指導上の留意点　◆評価
課題をもつ 7分 見通す 3分 深める 20分 まとめる・いかす 15分	1　課題をつかむ。 ・アンケート結果から学級の実態を知る。自分で服を選んでいない人数や服選びの理由を知り、課題意識をもつ。 ・現在の気温を確認する。 2　課題を設定する。 課 寒い季節の衣服の着方について考えよう。 3　寒い季節を快適にするポイントについて確認する。 4　衣服の働きについて調べる。 （１）布の種類（厚さ）による違いをアームカバー実験により確かめる。 （２）重ね着による違いをアームカバー実験により確かめる。 （３）効果的な重ね着についてのＶＴＲを見る。 （４）衣服の形について考える。 5　まとめる 寒い季節の衣服の着方は、布の種類、重ね着、衣服の形を工夫するとよい。 6　実践への意欲をもつ。 ・今日の学習を振り返る。 （今までは、今日の学習で、これからは） ・これから実践したいことを班で交流する。 ・次時の学習内容を確認する。	【いだく】学校生活や家庭生活を振り返り、あたたかい着方を自分で考えたいという思いをいだくことのできる場を設定する。 ・自分の服を選んでいない人数や服選びの理由を知り、課題意識をもたせる。 ・課題から「快適さ→あたたかさ」をおさえる。 【わかる】布の種類による違いや重ね着を体感し、ＶＴＲを活用しながら、あたたかい着方のポイントを学ぶ場を設定する。 ・いくつかの布のアームカバーを用意し、腕にはめさせ、布の厚さや種類による体感の違いに気付かせる。 ・あたたかい着方の順番を考え、体感させながら、重ね着をする良さに気付かせる。 ・重ね着をするとあたたかい理由や効果的な重ね着についてＶＴＲを通して科学的な根拠を示し、重ね着の効果について理解を深める。 ・衣服の形の工夫により、熱を逃がさない働きがあることに気付かせる。 ◆衣服の着方やあたたかい着方について理解できたか。（発言・ワークシート） ・布の種類、重ね着、衣服の形についてわかったことを書かせる。さらに、これからあたたかい着方をするために実践したいことを書かせる。 ・交流により自分の考えを広げ、実践への意欲を高める。

（５）指導の実際

＜研究の視点１について＞

【いだく】
学校生活や家庭生活を振り返り、あたたかい着方を自分で考えたいという思いをいだくことのできる場の設定

過程	学習活動と学習内容
課題をもつ７分 見通す３分	１　課題をつかむ ・アンケート結果から学級の実態を知る。自分で服を選んでいない人数や服選びの理由を知り、課題意識をもつ。 ・現在の気温を確認する。 ２　学習課題を設定する。 寒い季節の衣服の着方について考えよう。 ３　寒い季節を快適にするポイントについて確認する。

《課題把握に向けて》

アンケート結果をもとに、
寒い季節を快適に過ごすためには、

・今までのように家族が自分の衣服を選ぶ生活でいいのかどうか。
・自分で選んでいる人達は、今までと同じような衣服の選び方でいいのかどうか。

自分でも選べるようにならないといけない！

学習課題

寒い季節の衣服の着方について考えよう。

事前アンケート結果（学級の実態）

Ｑ自分が着る服は誰が選んでいますか。
自分（５４％）

Ｑ自分で服を選ぶときに気をつけていることは何ですか。

（男子）
・動きやすい物

（女子）
・色合い

★自分ごととして考えるために生活経験を振り返り、よりよい衣服の着方について具体的根拠を考える場を設定した。

Ｔ：動きやすさ、色合いなどで服を選んで寒い季節を快適に生活できる？
Ｃ：できない。
Ｃ：（首を振る）
Ｔ：去年の奥州市の最低気温は何度だと思う？
Ｃ：－１０度。
Ｔ：－１４度です。これからどんどん気温が下がっていきます。みなさんは今の服装のまま過ごしますか。快適に過ごすためには衣服の選び方について考えていく必要がありそうですね。

＜考察＞

○事前にアンケートをとることで、今まで衣服の選び方とは違う視点が必要なことを意識させた。
○寒い季節を快適に過ごすためにというポイントを押さえることで学習内容の視点が定まった。
△課題の前に予想させると、学習活動に見通しをもつことができたのではないか。

＜研究の視点２について＞

【わかる】
布の種類による違いや重ね着を体感し、ＶＴＲを活用しながら、あたたかい着方のポイントを学ぶ場の設定

1　布の種類（厚さ）による違いをアームカバー実験により確かめる。冬に着る衣服を想起し、布の種類の違いに体感しながら気づかせた。

Ｔ：みんなは寒くなったら何を着るの？
　Ｃ：トレーナー。
　Ｃ：セーター。
Ｔ：トレーナーとセーターの違いって何？
　Ｃ：厚さが違う。
Ｔ：どうやって確かめる？
　Ｃ：実際にさわる。

アームカバー提示

〇体感させるために４種類のアームカバーを用意
①うす手の長そで
②トレーナー
③セーター
④ジャンバー　※各班分（９セット）を用意

2　重ね着による違いをアームカバー実験により確かめた。

Ｔ：服は一枚だけで着ますか？
　Ｃ：着ない。
Ｔ：どうやって着るの。
　Ｃ：重ねて服を着る。
Ｔ：（写真を提示）

Ｔ：この寒い季節を快適に過ごすためには、どんな順番で服を着ればいいか考えてみてください。

実験後

Ｔ：重ね着するとなんであたたかくなるの？
　Ｃ：（首をかしげる）
Ｔ：その理由を映像で確かめてみましょう。

3　効果的な重ね着についてのＶＴＲを視聴した。

〔内容〕

寒い時期、衣服を暖かく着るポイントは空気の層。服の繊維と繊維の間の空気が体温で温められて暖かいと感じる。効果的な重ね着をするためには着る順番も大切。汗や汚れを吸収してくれる下着や、一番外側に着る服には冷たい風から体を守るものなど、衣服の特徴を考えながら重ね着をする。

[VTR] NHK for School

４　衣服の形について考えた。

・夏服と冬服の実物を掲示し、衣服の形に着目させた。

・冬服には、温められた空気の層を逃がさないように袖口が閉まっている特徴があることに気づいていた。

＜考察＞

・布だけではなく、アームカバーとして用意することで、実際に着ている服をイメージしながら実験することができた。

・重ね着をすることであたたかくなるということを生活経験として理解できている。ＶＴＲを通して、その科学的根拠について学習することができた。

・重ね着をした時としない時の違いが体感的なもので曖昧な結果になっていた。

（６）成果と課題

ア　成果

・衣服の選び方について、自分の衣服の選び方がこれからの季節に向けて適切なものかどうかを自覚させることで、課題意識を持たせることができた。

・重ね着の仕方について、自分の経験からだけでなく、空気の層を作り、それを温めることが大切だというポイントについて体感的、科学的に学習することができた。

イ　課題

・アームカバーを使ったり、ＶＴＲを視聴したりすることが、教師側からの一方的なものだった。実際に必要な道具や科学的根拠を示すものについて必要性に気づかせることが大切である。

・自分たちの班が考えた重ね着の順番を言葉で説明するときのまとめ方の指示が不十分だった。

2　５年「かしこい消費者になろう」　　授業者　奥州市立前沢小学校　教諭　金野　美穂

（１）本時のねらい

買い物と環境との関わりに気付き、物の買い方や使い方を工夫することができる。

（２）本時の指導について（視点とのかかわり）

視点３「学習したことを身近な生活に活用させる工夫【いかす】」に関わり、次のような手立てを考えた。

【いかす・いきる】	○環境という視点で買い物のそれぞれの場面を見つめ直す場を設定する。 ○環境や資源に配慮した物の買い方や使い方で、これから自分ができそうなことを友達と考えたり発表し合ったりする場を設定する。

（３）具体の評価規準

評価規準	A:十分満足できる （評価方法）	B:おおむね満足できる （評価方法）	努力を要する児童への手だて
○これからの自分の消費行動について、自分なりに考えたり工夫しようとしたりしている。 【生活を創意工夫する能力】	○環境に配慮した物の買い方や使い方があることに気付き、家庭での実践を具体的に考えたり工夫しようとしたりしている。 （発言・観察・ワークシート）	○環境に配慮した物の買い方や使い方があることに気付き、自分の生活に生かしたいことを考えたり工夫しようとしたりしている。 （発言・観察・ワークシート）	○板書をもとに振り返り、環境に配慮した物の買い方や使い方があることに気付くことができるようにする。

（４）展開

過程	学習活動と学習内容	・指導上の留意点　◆評価
課題をもつ 3分 見通す 5分 深める 17分 まとめる・いかす 20分	1　これまでの学習を振り返る。 2　課題を把握する。 課 もっとかしこい消費者になるためにはどうしたらよいだろう。 3　買い物の一連の手順の中で環境のことを気遣えるところはどこか考える。 4　買い物と環境との関わりについて考える。 5　環境や資源に配慮した生活の工夫や、これから工夫したいことをカードにまとめて、紹介し合う。 6　振り返りをする。 今までは、買い物と環境が関わっているとはあまり考えていませんでした。今日の学習で、環境のことを考えて商品を選ぶことが大切だと感じました。これからは、資源を大切にするためにエコバックを持って買い物に行こうと思います。	・第４時で学習した買い物の手順を中心にこれまでの学習を振り返る。 ・「より賢い消費者」として、環境に配慮した物の買い方、使い方があることに気付かせる。 ・大手企業の環境に配慮した取組みを紹介することで、物を売る側の環境への配慮について紹介する。 ・消費者センターでインタビューした映像を流すことで、環境の視点に目を向けさせる。 ・商品に付いている環境についてのマークを確かめ、買い物の際に意識することで、賢い消費者になることに気付かせる。 【いかす】環境という視点で買い物のそれぞれの場面を見つめ直す場の設定 【いかす】環境や資源に配慮した物の買い方や使い方で、これから自分ができそうなことを友達と考えたり発表し合ったりする場の設定 ◆自分の生活を見直し、環境に配慮した物の買い方や使い方について自分なりに考えたり工夫したりしようとしている。（ワークシート・発言） ・本時の学習を振り返り、「今までは」「今日の学習で」「これから」の３つの観点でワークシートに記述させる。

（５）指導の実際

○　消費者教育を視点とした単元構想

本単元は、「消費」について学習する内容である。そこで消費者教育の視点を取り入れ、「契約」や「買い物の仕方」について学びながら、私達の消費行動と環境が密接に関わっていることや、持続可能な社会の構築のために、自分の消費生活について見直していく必要があることに気付かせたいと考え、単元を構想した。

単位時間の学習では、賢い消費者を目指して、毎時間「消費者キラリ」を集めてきた。消費者キラリには、今日の学習で学んだことや、自分なりに消費者としてこれから気を付けたいことを書き溜め、学びを蓄積させる手立てを組んだ。

＜研究の視点３について①＞

過程	学習活動と学習内容
課題をもつ１０分	１　これまでの学習を振り返る。 ２　課題を把握する。 ㊟もっとかしこい消費者になるためにはどうしたらよいだろう。 ３　買い物の一連の手順の中で環境のことを気遣えるところはどこか考える。
深める１５分	４　買い物と環境との関わりについて考える。 ５　環境や資源に配慮した生活の工夫や，これから工夫したいことをカードにまとめて，紹介し合う。
まとめる・いかす２０分	６　振り返りをする。 今までは,買い物と環境が関わっているとは,あまり考えていませんでした。今日の学習で,環境のことを考えて商品を選ぶことが大切だと感じました。これからは,資源を大切にするためにエコバックを持って買い物に行こうと思います。

【いかす】
環境という視点で買い物のそれぞれの場面を見つめ直す場の設定

○　問題意識を高めるための手立て

環境の視点で買い物の仕方を見つめ直す必要性をもたせるために、社会科の学習で見せた、海のプラスチック汚染の写真を提示した。一人の消費者として、このままではいけないという思いをもたせ、課題を設定した。

第４次で学習した、買い物の手順を使って、環境のことを気遣えるところはないか考えた。個人で考えた後に、グループで交流することで、個人では考えられなかった視点に気付く児童もいた。

児童からは、「大事に長持ちするように使う」「エコバックを使う」「マークを見る」等が挙げられた。出された行動が、環境とどう関わっているのか、環境にとってどんな良いことがあるのかを考えた。

○　環境への配慮の必要性を実感させるための手立て

「詰め替え商品」を提示することで、環境のことを考えているのは、消費者だけではないことを押さえた。その際に、「詰め替え商品を選べば、容器に使われるプラスチック量は 10 分の１になる」ことを伝えた。

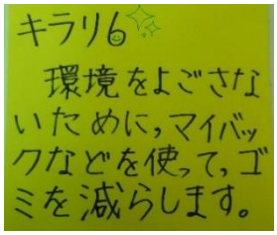
また、児童にとって買い物に身近なレジ袋を提示し、「レジ袋にどれくらいの石油が使われているのか」と発問した。少し考えさせた後に、「レジ袋 100 枚に、1.8Ｌの石油が使われている」ことや「このままレジ袋を使い続けると、後 100 年で石油がなくなってしまうこと」を伝えた。そして、「100 年先のことなら、自分達は関係のない話なのか」と問いかけた。具体的な数値を示したことで、危機感や驚きを覚えた児童が多く、環境への配慮を考えた買い物が大切だという実感をもたせることができた。

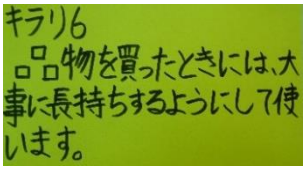
＜研究の視点３について②＞

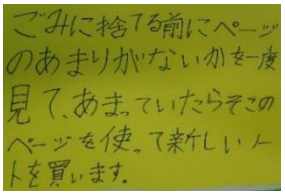
過程	学習活動と学習内容
課題をもつ１０分 深める１５分 まとめる・いかす２０分	1　これまでの学習を振り返る。 2　課題を把握する。 ㊙もっとかしこい消費者になるためにはどうしたらよいだろう。 3　買い物の一連の手順の中で環境のことを気遣えるところはどこか考える。 4　買い物と環境との関わりについて考える。 5　環境や資源に配慮した生活の工夫や，これから工夫したいことをカードにまとめて，紹介し合う。 6　振り返りをする。 今までは,買い物と環境が関わっているとは,あまり考えていませんでした。今日の学習で,環境のことを考えて商品を選ぶことが大切だと感じました。これからは,資源を大切にするためにエコバックを持って買い物に行こうと思います。

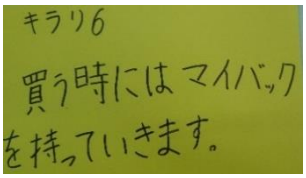
【いかす】
環境や資源に配慮した物の買い方や使い方で、これから自分ができそうなことを友達と考えたり発表し合ったりする場の設定

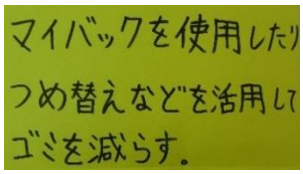
環境の視点で、買い物の手順を確認してきたことを振り返り、本時の『消費者キラリ』を書く活動を行った。以下のような宣言が出された。

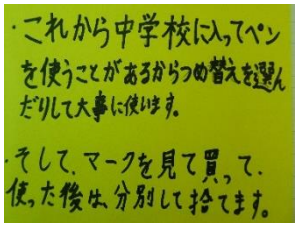












＜『今日のキラリ』宣言の様子＞

○　児童の「振り返り」の様子

・今までは、ノートにマークが付いていても何も気にしていなかったけれど、今日の学習で、マークがついた物を買うと、マークが付いたノートがたくさん作られていき、環境によいことが分かりました。これからは、環境のことも考えながら買い物をしたいです。

・今までは、品物を買うときに大事に長持ちするように意識せずに買っていたけれど、今日の学習で、大事に長持ちするように使うことは環境にもよいことにつながると分かりました。これからは、環境のことも考えて買い物をしたいです。

・今までは、環境ではなく使いやすさなどを考えて買っていました。今日の学習で、使いやすさだけでなく、つめ替えを選んだり、マークを見たりするなど、環境にいい買い物をすることが、これからの環境を守ることにつながるのだと分かりました。これからは、もっとかしこい消費者になるために、環境にも目を向けて買い物をしたいです。

（６）成果と課題

ア　成果

・これまでの買い物で困ったことや失敗したことを押さえたうえで、「賢い消費者になろう」という単元の目標をたて、消費者キラリを毎時間自分の言葉で集めてきた。本時は、これまでの買い物の仕方について、環境という違う見方で考えることができ、環境への配慮の大切さに多くの児童が気付くことができた。

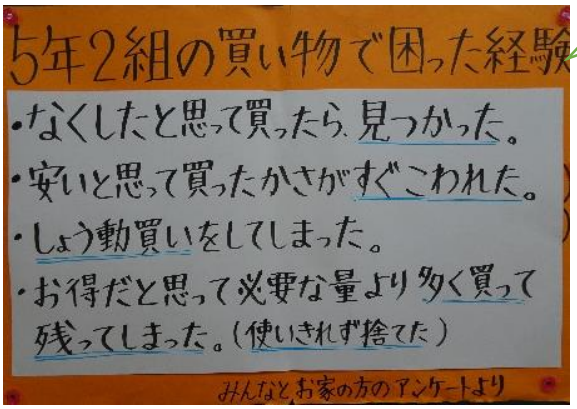
・レジ袋を 100 枚作るために、約 1.8Ｌの石油が使われている等の科学的根拠を示しながら買い物の仕方を考えることで、このままではいけないという危機感をもたせることができた。今後は、環境のことも考えた消費者になりたいと考えた児童が多かった。

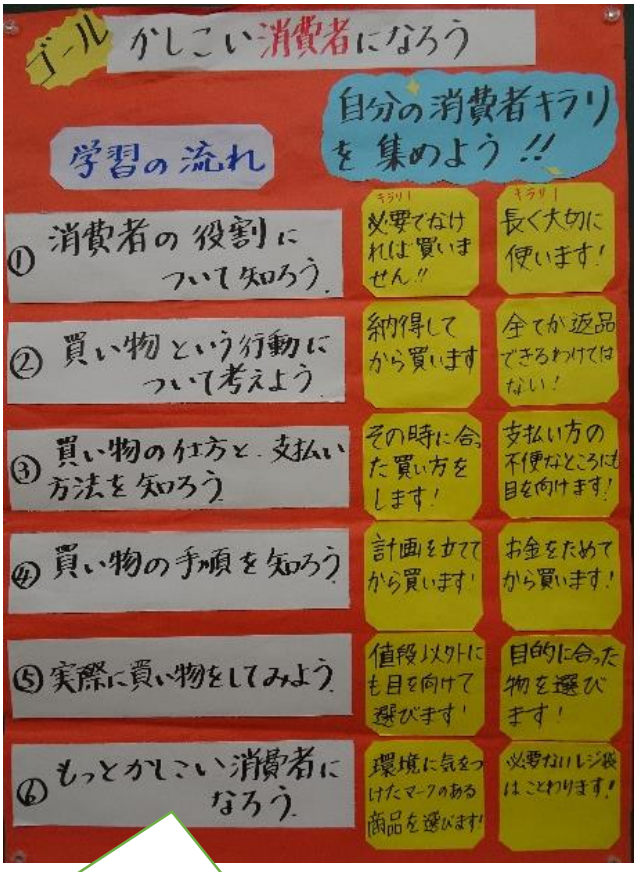
イ　課題

・消費者キラリの書き方の説明不足で、振り返りのようになってしまった児童がいた。そのため、消費者キラリと振り返りを一緒にする等、書き方の工夫について検討していく必要がある。

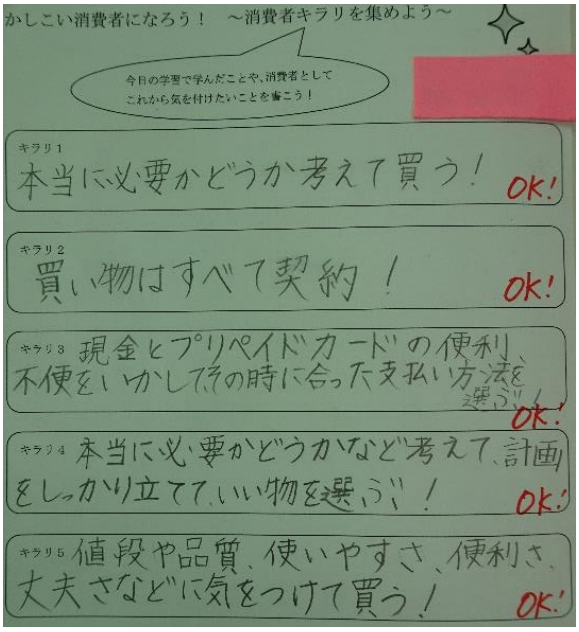
・環境に配慮した買い物をしたいという意識が高まったが、家庭での実践につなげるための手立てが必要であると感じた。学習したことを、学級通信等で家庭に周知したり、協力を仰いだりしていくことで、実践意欲を高めていく必要がある。

買い物で困った経験をみんなで出し合い、「かしこい消費者になろう」という単元の目標を設定した。





毎時間集めた『消費者キラリ』



消費生活センターの中村さんから、「契約とは」「買い物で困ったら」などについて、ビデオで分かりやすく話をしていただいた。一人一人が消費者として責任をもって行動していかなければならないことを、多くの児童が実感することができた。

Ⅸ　成果と課題

1　成果

・生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、学校や家庭での生活を見つめさせながら自分に返して考えさせることで、「してもらう自分」から「できる自分」へ向けての思いや願いをもつことができた。

・身近な生活課題の解決について、科学的根拠をもとにした理解を図ることができた。

2　課題

・資料との向き合わせ方やまとめの段階で子どもたちの思いを言語化させる工夫をしていく。

・振り返りの３点について実践を積み重ねて自己を振り返り、さらに「してもらう自分」から「できる自分」への自覚を高めていく。